

## 大久保の踏ん張り

### 島津久光への接近

島津斉彬が亡くなって、久光への接近を図る。久光が碁好きというので、まず精忠組の友人である税所篤の兄吉祥院住職の真海に碁を習う。久光が真海とときどき碁を打っていることを知っての接近だった。そして、あるとき久光が読みたいという平田篤胤の『古史伝』を探し、その本に意見や精忠組の存在を書いた紙片を挟んだ。これをきっかけに久光は大久保を知ることとなる。実際にお目見えが適ったのは、碁を習い始めてから2年近く経過した後であった。目的を達するための着実な努力と粘り強さはただものではない。

「小御所会議」 1866年12月9日夜、新政府のかたちをめぐって、慶喜の処遇をどうするかの大久保対立論争。

(この会議の前の11月、大久保は諸侯、朝廷の説得作業に精力を注ぐ)  
慶喜は大政奉還するも将軍職は含まれず。山内容堂、松永慶永参同。  
大久保・岩倉頑張るも旗色悪い。西郷隆盛「短刀一本あれば片付く」  
逆転で辞官納地、新政府からの慶喜排除が決まる。

### 鳥羽・伏見の戦い 1867年1月

大久保等の急進派少数派。公卿・諸侯は強硬策を嫌う。  
岩倉動揺。武力倒幕派追いつめられる。  
西郷の策謀：江戸を放火などで騒然とさせる。幕府は薩摩藩邸焼き打ち。  
慶喜京都へ進撃。薩摩側大勝利。

### 征韓問題 1873年10月14, 15日

岩倉は大久保が逡巡するも参議に起用。大久保遺書を書く。  
三条変節。岩倉・大久保辞任。三条倒れる。  
大久保「一の秘策」。太政大臣代理になった岩倉に大命降下。  
岩倉、上奏。天皇、延期策受諾。

### 台湾出兵・日清交渉

40日間に及ぶ長い難交渉。  
大久保：万国公法では「無主の地」である。出兵は「義挙」である。  
清国：台湾は自国領である。万国公法はヨーロッパの法であり、適用不可。  
粘り強い交渉。国内では開戦論も出る。日清戦争回避の方針。  
イギリス公使の仲介で、償金によって解決。植民地論否定。